

Sskp

CHIBA DARC NEWSLETTER



Keep on Growing!

平成23年10月号 編集:千葉ダルク事務局
千葉ダルク:千葉県千葉市中央区白旗3-16-7 ☎043-209-5564

秋色次第に濃くなり始めている今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。千葉ダルクではこの三か月の間にエイサーの披露する場を数多くいただきました。そして、披露させてもらい温かいご声援を頂いたときに思います、エイサーをやらせてもらっていて本当に良かったなど。いつもお声をかけて頂きありがとうございます。

前回のニューズレターで南房総ハウスでのエイサーのプログラムで使用する太鼓購入資金の献金のご協力をお伝えしてきましたが、この度、皆様のあたたかい献金のおかげで太鼓を購入することができ、エイサーを始めることができました。そして、館山病院設立百二十周年記念祭の場でさっそく初披露させてもらいました。決して上手くはありませんが、これからも練習を続け、披露させて頂ければ僕たちの自信にもつながると思います。引き続き温かく見守っていて下さい。宜しくお願いします。

また、皆様にお願いがあります。近い将来、千葉ダルクも法人化が必要になってくる可能性もあり、その準備のため本格的な会計の仕事を手伝ってくださる方、ご連絡下さい。宜しくお願い致します。

千葉ダルク
施設長 白川雄一郎

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC



「最近の自分」

トシ

こんにちは！依存症のトシです。なんか最近とにかく忙しいです。

自分は、今年の4月から千葉ダルクに居候させてもらっています。以前は、こちらのダルクに一年半入寮させてもらっていました。次のステップに向かうため、ここで生活させてもらい、普段はアルバイトをしてお金を貯めています。仕事が休みの時は施設の仲間とミーティングをしたりと一緒に生活させてもらっています。自分の次のステップとは…大学に戻る事です。自分は大学の3年生位から薬を使い、そのまま施設に入寮しました。もちろん大学なんて通える状態ではないので途中退学しました。

今は、まだ決定したわけではなく、取り敢えず状態も落ち着いてきたから入学の試験を受ける段階です。と、言っても10月にはもう試験が始まるので、このニューズレターが皆様の所に届く頃には結果が出ているでしょう。良い結果であればいいんですが…。でも、なーんも勉強してないです。そもそも薬使って二年、施設で一年半、そんな状態ではなかったから。じゃあなんでわざわざ大学に戻るのかって？正直自分でもよくわかっていません。もともと大学に入ったのも、通っていた高校が付属のとこだったから。昔からあまり夢も希望もなく生活していたみたいです。そんな自分にとうとう、興味がある事、この先勉強してみたいことが見つかりました。それは今の生活がヒントでした。でも、そのためには先ず合格しないと。別にひらきなおっているわけではないですが、ダメだったらまた別の道を探せばいいか位に考えています。薬を使わなければまた他の選択肢が出てくるだろうって感じです。

それはさておき、最近とにかく忙しいです。仕事、施設、大学のことで結構きついです。今やっている仕事は、リラクゼーションのお店でマッサージをやっています。今まで全くやったことのない事で、最初はスゲー大変でした。なんせ、人間関係が嫌で薬使いながら引きこもっていた自分が、個室で1対1で接客するなんて無理だろうと思いました。じゃあなんでこの仕事に就こうかと思ったのか…？これもあまり深く考えてなく応募したら、たまたま受かったから(笑)。もうかれこれ1年以上続いています。最近仕事にも慣れて、指名してくれるお客様も増え(たまに施設の仲間もきてくれます。)順調だし人と話すことの楽しさも解ってきました。今考えると、まさかここまで続けられると思っていませんでした。仕事場の人間関係もまあまあで、たまにご飯食べに行ったりもしています。あくまでも施設のプログラムとして働きに行っているの、なかなか難しいですけど。今の自分の状態は話しているので多少は理解してくれているみたいです。

とにかく今は、薬を使わない生活を楽しんでいるのですが、忙しいです。自分の次のステップに行くために、ほどほどに頑張りたいと思います。試験勉強もしないとなあ…。

「過去と現在」

うっぼい

こんにちは。薬物依存症のウッポイです。千葉ダルクに入寮してから約6ヶ月が過ぎました。現在は施設のプログラムに従って、アルバイトに出ながら生活しています。1日も早く退寮して普通の生活に復帰したいです。

自分にとっての最初の薬物体験は、中学時代に吸ったシンナーでした。当時の友達と一緒に地元の河原などで川の流れを眺めつつシンナーを吸っていた思い出があります。幻覚を見て楽しんだり、フワフワした感覚が気持ち良かったことなどありましたが、“シンナーでうりる”という行為がカッコ悪いという印象から好きになれず、高校へ上がる頃にはシンナー遊びを止めていました。それ以降、薬物に係わることなく平凡な生活を送ってきました。

20代半ばに就いた仕事はテレビ番組制作の現場でした。とにかく毎日が忙しくて遊ぶ時間など全く無い生活でした。帰宅する暇も無くて、会社のデスクで寝ることも多々ありました。そんな生活にストレスが溜まらない訳がありませんでしたが頑張っていました。けれども、ある日上司と衝突してケンカになってしまってことをきっかけに仕事を辞めてしまいました。

それまでずっと遊ぶことに我慢していた自分は解放された気分になり「これからはもっと自分の好きなことをしよう」と思って再就職もせずに貯金を崩しながら毎日パチンコ屋に通ったりして遊んで過ごしていました。特に野外レイヴやクラブで遊ぶことが大好きでした。そこにはMDMAやマリファナ、コカイン、LSDなどの薬物があつたからでした。新たに就職した後も、毎週末はどこかのクラブやイベントに通って薬を使い、友達と楽しい時間を過ごしました。薬を使うのはあくまでも週末の休みだけで、働いている平日の間はシラフで生活していました。

しかし、遊び仲間である友達を通じて始めた覚醒剤は全く別モノでした。自分はポンプを使うやり方は嫌だったのでガラスパイプや試験管を使って覚醒剤を炙っていましたが、他の薬物のように週末だけという限定した使い方が出来ませんでした。気が付けば毎日、出先がどこであろうと人目のつかない場所を見つけてはカチャカチャとライターで火を点けては覚醒剤を炙っていました。自動車免許の更新で訪れた警察署内のトイレや友人の裁判を傍聴しに行った裁判所内のトイレで炙っていたこともありました。

勿論、薬物を使用するようになってから「逮捕されるんじゃないか」という心配は常にありました。何時何処で警察から職務質問を受けるか分からないのだから、ポケットなどに入れて持ち歩くようなことは「自分を捕まえて下さい」と言っているようなもので自分は決してしませんでした。逮捕されたくないから隠し持って歩けるようにオリジナルアイテムを創作したりして薬の管理には細心の注意を払っていました。その結果、何度と受けた抜き打ちテストのような路上や車内での職質にも無傷で切り抜けることができました。

何か自分がミスを犯さない限り逮捕されることはないだろうみたいに思っていたのですが、ある日の朝、自宅やって来た警察によって呆気なく逮捕されました。これは全くの想定外の出来事でした。

1度目の逮捕なので執行猶予が与えられましたが、性懲りもなく覚醒剤を使い続けました。そして警察に内偵でガッチリ張り込まれていた売人のところへ覚醒剤を買いに行つて2度目の逮捕となり、某刑務所へ服役することに至りました。執行猶予が終わつてからの逮捕だったことが不幸中の幸いでした。

誰もが皆思う事でしょうが、まさか自分が刑務所に入ることになるなんて、そんなことは自分の人生のスケジュール帳の予定には入っていませんでした。勿論、出所後にダルクに入寮することも全くの予定外でした。

地方更生保護委員による面接が終わり、仮釈放が決まった同じ週に実家から手紙が届きました。内容は「うちでは今後、一切の面倒は看ない。従つて身柄の引き受けはうちではしない。もし、仮釈放したいのであれば、うちではなくダルクに身柄の引き受けをお願いしろ」でした。この手紙を読んだ時、本当に頭にきました。またこんな入れ知恵をしたのは誰なのかと怒りが湧いて仕方がなかったでした。1日でも早く娑婆に出たいという思いしかない自分にとっては選択の余地がありませんでした。

待ちに待っていた刑務所からの出所日も自分の意思とは反しての精神病院への入院日となり、目出度い気分も半減してしまいました。

退院後は身柄の引受人である千葉ダルクにそのまま入寮しました。満期を迎えて仮釈放が終わるまでは何処にも行けない状況でしたので、強制的な入寮でした。それ以来、毎日退寮したいと思いつつ生活を続けて、気が付けば半年が過ぎようとしている現実をどう感じればよいのか戸惑います。ダルクに来て良かったとは露ほどにも思えませんが、後悔もまたしていません。毎日のミーティングは好きではありませんが、共に生活している仲間は良い人が多く、今日まで自分が我慢して来れたのは仲間のお陰だと思っています。



家族の体験談

「仲間と共に」

千葉菜の花家族会

くろかわ ななこ

毎月第二水曜日、千葉のとある駅で、家族会の仲間と合流、ランチを済ませ、下総精神医療センターの会場へ。関西よりマッチョなゲスト（薬物依存症回復途上の男性）は、先に到着されていた。家族会の講演に遠路はるばるお越し頂いた。私の娘（薬中本人）の仲間である。感謝。二時間の熱弁、以前にも聞いたことがある。共依存の私を薬中の娘とのがんじがらめの苦しさから救ってくれた。今日はまた、千葉で仲間を救ってくれる真実の生のメッセージ、よくある薬中のストーリー、回復への希望がある。

一緒に聞いている千葉ダルクの仲間はポイントポイントで超受けている。元気になった。家族も笑っている。参加し始めの家族は真剣な表情で悲壮感も見える。でも、私は心の中で思う…大丈夫、家族会に来て仲間と共にいれば元気になれる。本人への対応も解ってくる。まずは家族が回復して笑顔を取り戻していこう。

今年、私の娘は再使用。依存症だからしょうがない。また6月からダルクに戻っている。ゲストの電話での開口一言「お母さん、良かったね～」ダルクの仲間は私が無力（ステップ1）で、本人を突き放していても支えてくれている、家族も助けられている。依存症者を自宅で支えていたり、病院、矯正施設に入れている家族は悩み苦しんでいる。常識で対応しても、すぐ助けられないのがこの病気の厄介な所。放っておいたら何かするのではないかと先取り不安、世間体もある、絶望感しかなかった。でも、今はダルクや家族会で、本人と家族は別々に治療。回復していけるとわかる。将来お互いに成長して、また出会える日が来る、夢ではない、真実。薬中や家族の体験談（メッセージ）の中にある希望を信じて仲間と共にプログラムを続けていきたい。

7月、本人の琉球太鼓を初めて見て感涙。生きていてくれたからこそハグも出来た。「幸せ…でも母には何もできません」と突き放し、見守るだけ。そして今日一日、本人も家族も仲間と共に生きていく、ハイパーパワーにお任せして。感謝。

千葉ダルク活動報告



<平成23年7月～平成23年9月の活動>

市川市「第61回社会を明るくする運動」にて講演
法務省保護局研修生の見学来所
東京保護観察所にて講演
関東医療少年院にて講演
佐倉市西志津中学校にて講演
いすみ市薬物乱用防止講習会にて講演
茨城ダルクフォーラムに参加
スルガダルクフォーラムに参加
秋元病院祭りにてエイサー演舞
イエローハート10周年記念会にてエイサー演舞
館山病院設立120周年記念祭にてエイサー演舞
東京都多摩総合精神保健福祉センター
家族教室講師及び薬物アルコール等相談の助言者（毎月第二・第四木曜日）
国立下総精神医療センターへメッセージ（毎月第二・第四火曜日）
八街少年院へメッセージ（毎月第一・第三金曜日）
千葉菜の花家族会ビギナーズミーティングに参加（毎月第二水曜日）
大里にて農業プログラム（毎週土曜日）

<平成23年10月度以降の活動予定>

国立下総精神医療センター 第三回薬物乱用対策研修会にて講演予定
千葉県薬物乱用防止指導員、千葉ダルクに視察見学予定
千葉港ロータリークラブにて講演予定
千葉県精神保健福祉センターにて講演、エイサー演舞予定
非行の会 全国交流集会にてエイサー演舞予定
柏中央高校にて講演予定
佐倉東高校にて講演予定
東京都多摩総合精神保健福祉センター
家族教室講師及び薬物アルコール等相談の助言者（毎月第二・第四木曜日）
国立下総精神医療センターへメッセージ（毎月第二・第四火曜日）
八街少年院へメッセージ（毎月第一・第三金曜日）
千葉刑務所へメッセージ（毎月第一・第三金曜日）
千葉菜の花家族会ビギナーズミーティングに参加予定（毎月第二水曜日）
大里にて農業プログラム（毎週月、木、土曜日）